

近年、その態様について検討・改善を加える必要が叫ばれている。

すなわち、進学率の増大は高等学校教育を準義務教育化し、それとともに定時制生徒は漸減をたどっている。

また、通信制の教育は独特の教育形態をもつため、情報化時代に適合する教育として、単に高等学校教育の領域に止まらず、広い社会教育の視点から見直されてきた。

全国的にみても、通信制生徒は漸増の傾向があり、さらに高年令層の入学も目立つようになってきている。

このような実態をふまえ、ここに学ぶ必要のある勤労青少年や成人のために、定通教育を担当する教員が、教育内容や教育方法を研究し、指導力と共に資質を向上するため、次の事業を行なった。

1. 昭和47年度高等学校定時制・通信制教育研修会

(1) 目的

定時制・通信制教育の諸問題について研究協議を行ない担当教員の資質の向上をめざし、授業の充実を図る。

(2) 期 日

昭和47年7月31日(月)～8月2日(休)

(3) 会 場

国立磐梯青年の家

(4) 講師・講演内容

「定時制・通信制教育における諸問題について」

福島県立福島中央高等学校長 藤 井 勇

(5) 分科会・研究内容

第1分科会 経営・管理

○地域や生徒の実態に即する定通教育をすすめるため、今後の具体的実践策をどう考えたらよいか。

○定通併修・技能連携・多部制など、多様な授業形態をとる場合の問題点は、どのようなことがあるか。

第2分科会 教育課程

○定時制・通信制の教育課程の編成上、問題となる点はあるか。

○必修クラブを運営するうえで問題点をどのように解決したらよいか。

第3分科会 英語

○定時制・通信制高等学校の英語教育は、いかにあるべきか。

第4分科会 数学

○改訂学習指導要領に基づいた数学の指導計画をどうすればよいか。

○学力の向上を図るには、テストをどのようにしたらよいか。

○数学に対する興味を高める指導上のくふうはどうすればよいか。

(6) 助言者

高等学校教育課	主任指導主事	飯 島	護
〃	指導主事	芳 賀	広
〃	〃	森	修一
〃	〃	小松原	格

” ” 早 川 俊

2. 第21回東北地区高等学校定時制・通信制教育振興会総会ならびに第24回東北地区高等学校定時制・通信制教育研究協議会

(1) 趣 旨

高等学校定時制・通信制教育について、東北各県相互の理解と認識を深め、現状および将来における種々の問題について研究討議を重ね、今後の振興を図る。

(2) 期 日

昭和47年6月28日～30日

(3) 会 場

青森市民文化センター

(4) 部会および分科会

◎学習指導部会	○第1分科会	教科外活動
	○第2分科会	教育機器
◎生徒指導部会	○第3分科会	生徒理解
◎経営管理部会	○第4分科会	学習形態
	○第5分科会	教育課程

なお、本県定通教育の概況説明および部会の指導助言を高等学校教育課指導主事小松原格が行なった。

3. 昭和47年度全国高等学校定時制・通信制教育研究協議会

(1) 目的

高等学校の定時制および通信制の課程における学習指導上の諸問題について研究協議を行ない、もって定時制通信制教育の振興に資する。

(2) 主 催

文 部 省

(3) 期 日

昭和47年9月13日～14日

(4) 会 場

国立教育会館

(5) 部会、研究協議議題および出席者

◎第1部会 「数学」の指導について
○県立いわき中央高等学校教諭 鈴木 義一
◎第2部会 「家庭」の指導について
○県立安達高等学校針道分校教諭 紺野 タミ
◎第3部会 「英語A(B)」の指導について
○県立福島中央高等学校教諭 小林 美和子

4. 第27回東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会ならびに研究協議会

(1) 趣 旨

高等学校通信教育について、数少ない実施校である東北・北海道各道県相互の理解と認識を深め、現状および将来における種々の問題について研究協議を行ない今後の振興に資する。